

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	社会福祉士及び介護福祉士法		3
	2	(ア) ④		各
		(イ) ①		3
		(ウ) ③		× 3
	3	① OJTとは、仕事を通じた訓練のことであるため、この施設の場合では、一定期間、先輩職員と初任者の職員がペアになって、排泄介護に関する介護技術の研修を行う。先輩職員が、実際に利用者を実施するおむつ交換の技術と利用者へのコミュニケーション技術について、初任者に指導しながら職務を行う。その後、初任者や他の職員の期間中の気付きについて全職員で共有し、職員間でお互いに改善点や技術向上のポイントについてフィードバックする。 ② Off-JTとは、仕事を離れての訓練のことであるため、この施設の場合では、排泄介護に関する最新の福祉用具や介護ロボットを取り入れている教育機関に数名の職員が出向き、サービス利用者の排泄周期を把握するなど、最新の福祉用具や介護ロボットを活用したよりよい介護の方法を得る。その後、知り得た知識について、職員会議等で全体に周知して、現場に取り入れられる点を検討する。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	各 9 × 2
2	1	(ア) 居宅	居宅介護 もよい。	各
		(イ) 地域密着型	地域密着型介護 もよい。	3
		(ウ) 施設	施設介護 もよい。	× 3
	2	(1) ①、③、⑤、⑧	順序は問わない。 全部合っているものだけを正答とする。	4
		(2) 22,000 円		3
	3	(イ)、(キ)、(ク)	順序は問わない。 全部合っているものだけを正答とする。	5
	4	①	・腰痛の防止につながる。 ・力の弱い職員でも、体格の良い利用者を安心して移乗介助ができる。 ・夜間の訪室回数が削減できる。	各 3 × 3
		②	・安心して業務（移乗、見守り等）ができるようになる。 ・事故に対する不安や精神的負担が軽減される。	
		③	・質を保ちつつ、ケアの効率化ができる。 ・排泄物処理、シーツ交換の時間が短縮されたり不要になったりする。 ・介護ロボットの各種情報を1つのパソコンで確認できることで、複数の利用者の状況を把握することができる。 ・介護ロボットの情報と介護記録システムが連携できることで介護記録の入力時間を削減できる。	
			それぞれ1つずつ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。	

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点		
3	1	(1)	(ア)	視覚		各 3 × 3	4 2	
			(イ)	介助犬				
			(ウ)	聴導犬				
		(2)	白	色	順序は問わない。	各 3 × 2		
			黄	色				
	2	(1)	図 1	名称	誘導ブロック	図 1 の名称は、線状ブロックもよい。 図 2 の名称は、点状ブロックもよい。 「役割」については、内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		各 3 × 4
				役割	移動方向を示す。			
			図 2	名称	警告ブロック			
				役割	注意が必要であることを示す。			
		(2)	あそんでみよう みんなともだち			6		
3		・ 窓を閉める。 ・ テレビを消す。 ・ 集音機能のある補聴器をポケットから出す。 ・ 正面から相手の顔を見る。			3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	9		
4	1	(ア)	36	℃		各 2 × 2	3 0	
		(イ)	37	℃				
	2	(1)	感染経路			3		
		(2)	(オ) → (イ) → (エ) → (ウ) → (キ) → (カ) → (ア)		全部合っているものだけを正答とする。	5		
	3	(1)	(A)	イリゲーター		イリゲータ イルリガートルもよい。		3
			(B)	クレンメ				3
		(2)	21.6 ml			6		
		(3)	不適切な点	・ 注入速度が速い。 ・ 経管栄養剤の濃度が高い。		1つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。 原因と改善点がともに合っているものだけを正答とする。		6
			改善点	・ 1時間当たり 200 ml の速度で注入する。 ・ 血管内の浸透圧の関係で、1 ml 当たり 1 kcal の濃度で栄養剤を調整する。				

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を与える。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意		配 点	
5	学習活動	1 時間目に、介護者役と利用者役に分かれ、「体位変換」について、①水平移動、②上方移動、③仰臥位から側臥位の体位変換を行う。役割を入れ替えて実施した後、それぞれの立場から、介助する際の困難さや危険予想について考え、記録する。さらに、「ボディメカニクスを活用した安全で安楽な体位変換」という課題を設定し、同じく①水平移動、②上方移動、③仰臥位から側臥位の体位変換を行い、それぞれの立場から、介助する際の困難さや危険予想について考え、記録する。 2 時間目に、安全で安楽な視点からボディメカニクスを活用する前と後の違いを比較し、まとめ、グループ内で発表する。		問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。		2 4	2 4
	学習活動を設定した理由	生徒の習得状況において、30 % の生徒しかボディメカニクスを意識して実践できていないことから、ボディメカニクスを活用した介護を課題とする。 2 次では、介護者役と利用者役に分かれ、ボディメカニクスを活用する前と後を比較させることで、実際に重心の位置や利用者との距離、てこの原理を意識させるなどボディメカニクスによる科学的根拠に基づいた、安全で安楽な体位変換の技術について、体験をもって習得させることができる。 どのような動きにボディメカニクスが活用できるのか理解させることで、3 次の体位変換につながる学習活動とした。					
6	1	アルツハイマー型認知症				4	3 0
	2	(1)	ウ			3	
		(2)	イ			3	
	3	・「その人らしさ」を尊重し、本人自身をケアの中心として捉え、ケアの質とその人の生活の質を高めようとするケア。 ・認知症になっても、認知症が進行しても、その人が長年培ってきた価値観を尊重することを目指すケア。		1 つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。		6	
	4	認知症の人を理解するためには、認知症の人の立場に立って、行動の背景を推測し行動の意味を捉える分析的理解を行う必要がある。その結果、認知症の人の言動は心配ごとや気がかりなことを解決しようとしている気持ちの表れであるという共感的理解ができるようになる。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。		1 4	
7	(ア)	考え方				各 2 × 7	1 4
	(イ)	体験					
	(ウ)	尊厳					
	(エ)	持続可能					
	(オ)	技術					
	(カ)	倫理観					
	(キ)	人間性					